



日本 RA のリハビリ研究会
第 27 回学術集会抄録集

RA の診療に関わる基礎知識の再確認

- 患者の病状を明確にするために -

平成 24 年 11 月 10 日 (土)

松山市総合コミュニティセンター 大会議室

松山市湊町 7 丁目 5 番地

大会長：高橋康博

(道後温泉病院 リハビリテーション科)

大会事務局

医療法人 千寿会 道後温泉病院 リハビリテーション科

〒790-0858 松山市道後姫塚乙 21 番 21 号

電話：089 (933) 5131 FAX：089 (933) 5137

メールアドレス：racenter@sgr.e-catv.ne.jp

ホームページアドレス：<http://doh-racenter.jp>

第27回日本RAのリハビリ研究会学術集会開催に向けて

大会長 高橋康博
道後温泉病院 リハビリテーション科

今年の夏は酷暑と節電でしたが、会員の皆さまはいかがでしたでしょうか。

さて、来る平成24年11月10日に四国で初めて本学術集会を松山市総合コミュニティーセンターで開催いたします。テーマは「RAの診療に関わる基礎知識の再確認」—患者の病状を明確にするために—と題して、特に若い会員の方にもう一度RAを見つめ直していただきたく企画致しました。特別講演は道後温泉病院リハビリテーション科科長、安岡郁彦先生に「RA患者さんに関わる若いセラピストに伝えたいこと」として30年以上RAのリハビリに関わってこられた経験から話していただきます。教育講演Ⅰは中外製薬の協力を得ましてランチョンセミナーとしました。講演は「セラピストも知っておきたい検査と薬物療法の基礎知識」を道後温泉病院リウマチセンター内科奥田恭章先生にRA治療の現況を話していただきます。教育講演Ⅱでは「リウマチ診療におけるレントゲン評価の注意点」—若きセラピストに贈る先人からの尊い（痛い）経験—と題して同病院リウマチセンター整形外科安達永二郎先生に診療で見落としがちな所を症例を通して紹介頂きます。一般演題も18題応募があり活発な発表・議論がなされるものと思います。

11月の愛媛は気候温暖で過ごしやすい所です。愛媛みかんも最盛期を迎え美味しくなっています。夜は道後温泉でゆっくり癒していただきたく思います。ぜひ多くの方の参加をお待ちしております。

参加事前登録のお願い

今回ランチョンセミナーを開催するに当たり参加人数の事前把握を行いたく、参加者の皆様には参加費納付を含む事前登録をお願いすることとなりました。お手数をお掛けしますが、当日の混乱を避けるため、事前登録にご協力お願い申し上げます。

【参加事前登録方法】

受付期間：平成24年10月1日（月）～11月2日（金）

登録方法：第27回学術集会参加希望と明記の上 ①氏名 ②所属 ③連絡先（TEL/FAX、メールアドレス）を記載し、大会事務局（089-933-5137 または E-mail: racenter@sgr.e-catv.ne.jp）までお申込み下さい。

参加費：正会員 3,000円 非会員 5,000円 学生 1,000円

振込先：愛媛銀行 道後支店 口座番号 普通 5564938

口座名義人 第27回日本RAのリハビリ研究会 実行委員長 宮川 豊

（ダイ カイ ニホン ケンキュウカイ ジッコウインチョウ ミヤガワユタカ）

【学術集会会場への交通アクセス】

松山市総合コミュニティセンター周辺詳細地図

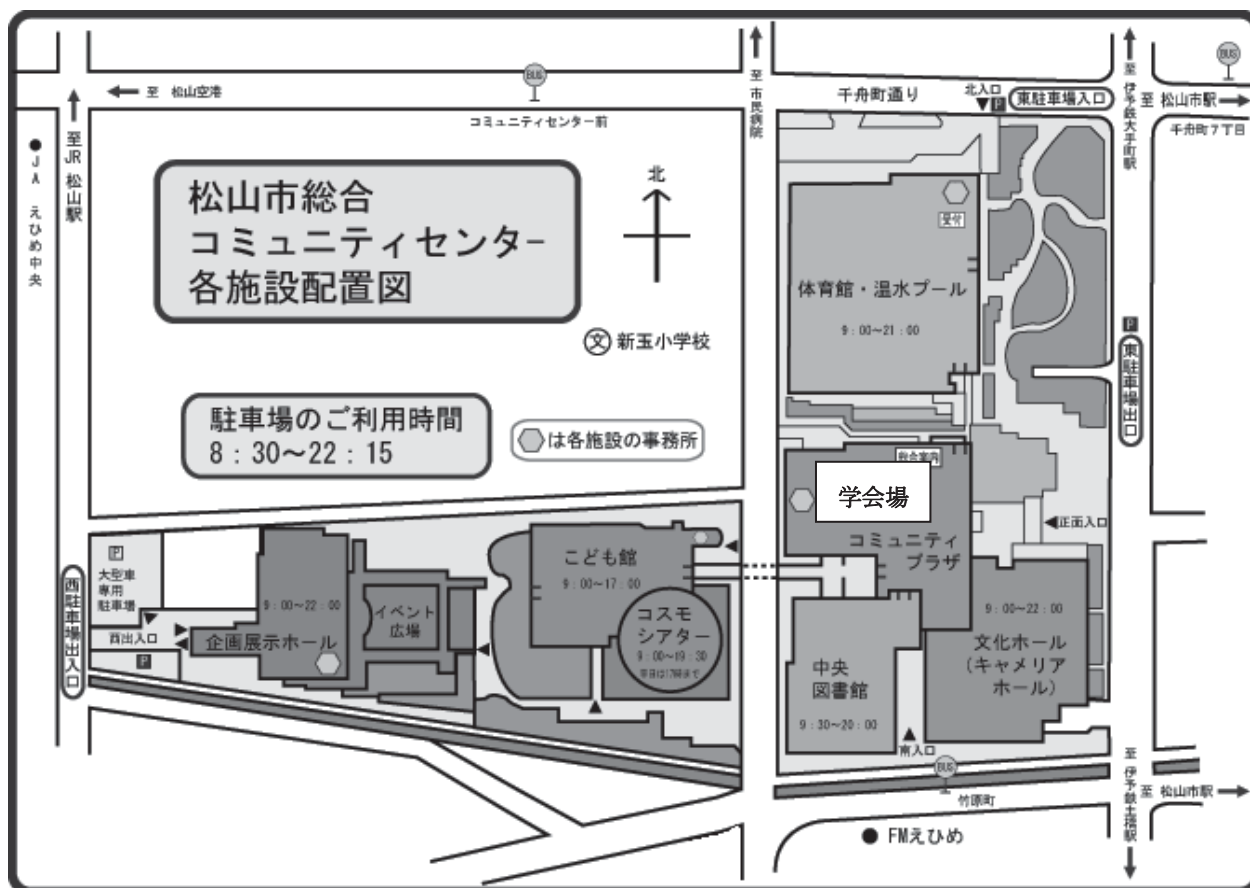


●松山市駅から

- ・伊予鉄バス（JR松山駅前行）または（津田団地前行）約3分
松山コミュニティセンター前で下車

- JR 松山駅から
 - ・伊予鉄バス（久米駅前行）約2分
松山コミュニティセンター前で下車
- 伊予鉄電車
 - 高浜線（大手町駅）から徒歩約7分
 - 郡中線（土橋駅）から徒歩約10分

各施設配置図



*本学会場はコミュニティプラザ3階となります。

【駐車場について】

会場の地下駐車場には数に限りがありますので公共交通機関で御来場ください。近隣にいくつかコインパーキングがありますが、会場と契約関係はありませんので、駐車サービス等は行っておりません。御利用は個人の判断でお願いします。

参加者の皆様へ

【受付】

- 1) 11月10日 9:00開始 参加費：正会員 3,000円 非会員 5,000円 学生 1,000円
- 2) 受付で領収証・ネームカードをお渡しします。ネームカードに所属・氏名をご記入の上、会場内ではご着用ください。
- 3) 非会員の方々に日本R Aのリハビリ研究会へ入会を希望される方は、当日入会受付を行います。
(この場合参加費とは別に、年会費 3,000円が必要となります。)
- 4) 当日正会員年会費納入の受付も行います。
- 5) クロークの準備はありませんので、お荷物は各自会場内へお持込み下さい。
- 6) 本学会終了後に専門理学療法士申請に関する受講票の発行を致します。
- 7) 日本作業療法士協会生涯教育制度 1ポイントが取得できますので作業療法士の方は受付の際に日本作業療法士協会会員証を提示して下さい。
- 8) 学生は受付の際に学生証を提示して下さい。

【会場内での注意】

- 1) 携帯電話は必ずマナーモードに設定して下さい。
- 2) 会場内での録音、写真・ビデオ撮影は関係者以外禁止されています。
- 3) 喫煙は所定の場所をお願いいたします。

【昼食】

ランチョンセミナーの弁当は事前登録の方を優先してお配りします。

弁当は十分に用意いたしますが、不足の場合には各自でお取りいただくこととなります。

【演者へのお願い】

発表の先生は、前日より会場の準備が困難なために当日の準備が慌ただしくなることが予想されるため

11月5日(月)までにCD-Rでスライドデータを事務局まで送付して下さい。

なお、スライドデータの事前送付が困難な方は、当日10:00までにスライド受付にCD-Rをお持ち下さい。

※提出いただいたデータは、学術集会終了後、事務局が責任を持って破棄いたします。

事務局データ送付先：大会事務局

道後温泉病院 リハビリテーション科 高橋康博宛

〒790-0858 松山市道後姫塚乙 21-21

TEL : 089-933-5131 FAX : 089-933-5137 E-mail : racenter@sgr.e-catv.ne.jp

【発表要項】

こちらで用意する PC は Windows XP、Windows7 で Power Point 2007 (Microsoft) がインストールされたものです。運営の都合上、上記の形式で発表スライドの作成をお願い致します。これ以外の形式のデータでは、動作の補償ができませんのでご注意ください。動画の動作は補償できませんが、事務局へ連絡の上 2 週間前までにデータを CD-R で送付いただければ確認いたします。

- 1) 一般演題は、発表 7 分以内、質疑応答 3 分以内です。
- 2) 次演者は、当該セッション開始 5 分前までに次演者席へお座りください。
- 3) 発表データのスライド画面送りは、演者自身が、キーボードまたはマウスを使用して行ってください。
- 4) 演者は、当日、機関誌用の原稿を御提出下さい。原稿は、スライド受付時に CD-R 等の電子媒体に保存したデータ形式で提出してください。円滑な研究会誌発行に御協力下さいますようお願いいたします。
(原稿作成の詳細は、投稿規約を御参照下さい) ご不明な点は、事務局にお問い合わせください。

【座長へのお願い】

座長の皆様は、担当セッション開始 15 分前までに次座長席にお座りください。プログラムの進行には十分ご配慮いただきますようお願いいたします。

【総会のご案内】

開催時間：平成 24 年 11 月 10 日 (土) 13:00～13:20

場 所：松山市総合コミュニティーセンター 大会議室 (3 階 学術集会会場)

総会に欠席される方は、11 月 1 日までに委任状を提出してください (ハガキ同封)。

【世話人会のご案内】

開催日時：平成 24 年 11 月 9 日 (金) 学術集会前日 18:00～19:00

場 所：ホテル JALCITY 松山 3 階 スタールーム

- 松山空港リムジンバスにて 17 分 (愛媛新聞社前下車) →徒歩 1 分
- 松山駅 → 徒歩 8 分
- 松山駅 → 路面電車にて 5 分 (西堀端駅下車) 降りてすぐ

【次回日本 RA のリハビリ研究会学術集会の御案内】

第 28 回日本 RA のリハビリ研究会学術集会

開催日 : 平成 25 年 10 月 19 日 (土)

会 場 : 神戸大学医学部シスメックスホール

大会長 : 中川 夏子先生 (甲南加古川病院)

事務局長 : 久野 幹大先生 (甲南加古川病院)

プログラム

大会長挨拶 (9:25～9:30)

大会長 : 高橋康博 (道後温泉病院 リハビリテーション科)

特別講演 (9:30～10:30)

司会 : 高橋康博

(道後温泉病院 リハビリテーション科)

RA 患者に関わる若いセラピストに伝えたいこと

演者 : 安岡郁彦 (道後温泉病院 リハビリテーション科)

一般演題 I 1～4 (10:35～11:15)

座長 : 倉田徹

(宇多津クリニック リハビリテーション科)

1. 手術により箸動作の改善がみられた関節リウマチ症例の経験
～不明確な想いを実現していく～
天野康子 (倉敷成人病センター リハビリテーション科)
2. スプリントによりボタンホール変形が改善した若年性特発性関節炎の1症例
蓬萊谷耕士 (大阪医科大学 総合医学講座 リハビリテーション医学教室)
3. 外反母趾対策靴下着用による効果と満足度の検討
祖川稔史 (道後温泉病院 リハビリテーション科)
4. 当院におけるRA患者に対する装具処方における理学療法士の関わりについて
阿部敏彦 (田窪リウマチ・整形外科 リハビリテーション室)

一般演題 II 5～8 (11:15～11:55)

座長 : 宮内博雄

(海里マリン病院 リハビリテーション科)

5. 同側の人工膝関節置換術および足関節固定術を同時施行した関節リウマチ症例に対する理学療法
小島尚子 (北海道大学病院 リハビリテーション部)
6. 関節リウマチ患者の独歩能力に関する研究
島原範芳 (道後温泉病院 リハビリテーション科)

7. 関節リウマチ患者における足趾形成術施行前後の足底圧の変化について 第1報
 渋谷建昭 (新潟県立リウマチセンター リハビリテーション科)
8. 両側足関節固定術後の関節リウマチ患者に対する治療介入～立位姿勢に着目して～
 松嶋里美 (リハビリテーション中伊豆温泉病院 リハビリテーション科)

ランチョンセミナー (12:00～13:00)

司会 : 阿部敏彦

(田窪リウマチ・整形外科 リハビリテーション室)

(共催: 中外製薬株式会社)

セラピストも知っておきたい検査と薬物療法の基礎知識

演者: 奥田恭章 (道後温泉病院リウマチ科・内科)

総会 (13:00～13:20)

一般演題Ⅲ 9～13 (13:25～14:15)

座長 : 藤田慎一郎

(倉敷スウィートホスピタル リハビリテーションセンター)

9. 家庭用低温乾式遠赤外線サウナのエネルギー代謝に与える影響とリスクの検討
 北條達也 (同志社大学大学院 スポーツ健康科学研究科)
10. 生物学的製剤導入時の関節破壊の程度による身体機能と日常生活動作能力への影響
 桜木康仁 (道後温泉病院 リハビリテーション科)
11. 当院外来関節リウマチ患者の自己効力感について
 松山俊史 (北海道内科リウマチ科病院 リハビリテーション課)
12. 肘関節部痛と可動域制限を主訴とした若年性特発性関節炎の作業療法の経験
 岩井有香 (大阪医科大学 総合医学講座 リハビリテーション医学教室)
13. TEA 術後患者の追跡調査
 後藤喜代美 (新潟県立リウマチセンター リハビリテーション科)

一般演題Ⅳ 14～18 (14:15～15:05)

座長 : 佐藤信治

(道後温泉病院 リハビリテーション科)

14. RA 患者の手指炎症関節に運動が与える影響について
高木利史 (北海道内科リウマチ科病院 リハビリテーション課)
15. 関節リウマチにおける手関節障害(遠位橈尺関節)に対する DASH を用いた検討
石本健 (鶴田運動機能回復クリニック リハビリテーション科)
16. SLE に合併した環小指屈筋腱皮下断裂の 1 例—浅指屈筋の筋収縮特性に着目して—
櫛田里恵 (京都府立医科大学附属病院 リハビリテーション部)
17. 伸筋腱皮下断裂後にギター演奏が不能となった関節リウマチの 1 症例
上村香 (淀川キリスト教病院 リハビリテーション科)
18. 当院における人工指関節 Swanson Implant に対するリハビリテーションプログラム
田口真哉 (北斗病院 リハビリテーション科)

教育講演 (15:10～16:10)

司会 : 井上浩二

(道後温泉病院 リハビリテーション科)

リウマチ診療におけるレントゲン評価の注意点

- 若きセラピストに贈る先人からの尊い(痛い)経験 -

演者 : 安達永二郎 (道後温泉病院リウマチ科・整形外科)

次期大会長挨拶 (16:15～16:20)

次期大会長 : 中川夏子

(甲南加古川病院 リウマチ膠原病センター 整形外科)

閉会の辞 (16:20)

懇親会 (18:30)

日本 RA のリハビリ研究会誌 「投稿規定」

1. 原稿の募集

- 1) 投稿者および連名者は本研究会会員に限ります(医師の場合はこの限りではありません)。非会員の方は、投稿者名から削除する場合があります。
- 2) 原稿・図・表は Windows MS word, power point を使用し、CD-R 等の電子的ファイルと印刷原稿 1 部をお送り下さい。
- 3) 印刷原稿には、図・表の挿入箇所を朱書にてご指示ください。

2. 執筆要項

原稿枚数は一般演題とシンポジウム等は A4 サイズ 6 枚以内、記念講演・特別講演等は A4 サイズ 10 枚以内にて 1 行 44 文字、1 頁 38 行でお願いします。図・表・写真は原稿枚数に含まれます。1 枚あたりの頁換算の指定はしませんが、誌面における図・表等の大きさを考慮のうえ作成してください。なお、図・表・写真等でカラー印刷が必要な場合は別途料金（3 万円程度）を請求させていただきます。第 1 頁目は 1 行目にタイトル、3 行目に所属名、4～6 行目に執筆者名をご記入下さい。

1) 本文

- ① 第 1 項目目の本文は 8 行目よりお書き下さい。
- ② 原稿は横書きで新かなづかいで平易に書き、学術用語は現在慣用のもの、数字は算用数字を用いてください。外来語はカタカナを、人名は原語を用いてください。
- ③ 表の番号は上に、図の番号は下に書いてください。各図表、写真の裏には著者名を記入してください。
- ④ 単位は CGS 単位とし m、cm、cm²、Å、ml、dl、kg、mg、msec、秒、分、時等を用いてください。

2) 文献

- ① 文中の引用箇所には肩番号（右肩に¹⁾ ²⁾ ³⁾）を付してください。
- ② 文献の書き方
 - a. [雑誌] 著者名:表題. 誌名, 巻: 始頁-終頁, 発行年.
 - b. [単行本] 著者名: 表題. 書名 (編集者), 始頁-終頁, 発行地, 発行所, 発行年.
- ③ 共著者が多数の場合は 3 名まで連記し (姓を先に)、後は“他”、“et al”を付します。
- ④ 発行所が複数の場合、最初の発行地または本社のある所を採ります。
- ⑤ 外国雑誌の略称は Index Medicus によりお書き下さい。

3. 校正

著者校正は必要な場合 1 回行います。